

生活

□火・水・木・土曜掲載 TEL:098(865)5158 E-mail: seikatu@ryukyushimpo.co.jp

患者の「口から食べる」支援



12日、沖縄市



Comer代表の大城清貴さん

食支援の知識を現場でどう生かすか話し合う職員ら
II 12日、沖縄市

沖縄リハビリテーションセンター病院の職員らが、患者の「口から食べる」支援について学んでいます。このプロジェクトは、医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院が実施するものです。参加者は、看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、管理栄養士など多職種の人たちです。彼らは、患者の個々の状況に応じた支援方法や、摂食嚥下障害に対するアプローチについて議論しています。

脳卒中や神経難病などが原因で、口から食べることが難しくなる「摂食嚥下障害」。沖縄市の医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院は、口から食べることの重要性に着目し、昨年8月から「口から食べるを支援するプロジェクト(KSP)」に取り組んでいます。院内の看護師や言語聴覚士らなど各専門職の職員らが約8カ月間、座学や現場実践などで患者の食支援について学んできた。摂食・嚥下障害看護認定看護師で、食支援のコンサルティングやセミナー開催を担う合同会社Comer(コメール)代表の大城清貴さんが指導役を務めた。

沖縄リハビリセンター病院(沖縄市)
多職種連携でプロジェクト

正しい知識と技術、多職種の連携で、摂食嚥下障害である患者も多いとして、大城さんは県内の回復期・急性期病院、訪問看護ステーション、介護保険施設で、患者の食支援や口腔ケアの方法などを指導している。

沖縄リハビリテーションセンター病院が取り組むKSPは、看護師や言語聴覚士、作業療法士の多職種が参加する。昨年8月以来、参加した。これまで学んだ知識をまとめることを目的にグループワークがあった。

四つのグループに分かれ、①低栄養のアセスメント、②口腔ケアや摂食嚥下のメカニズム、食事介助などの講義に加え、現場での実践指導も行われた。今月12日は、これまで学んだ知識をまとめて、チームワークやエネルギーが必要。学んだ知識を現場で生かし、自分のスキルにしてほしい」と語った。沖縄リハビリテーションセンター病院の垣花美智江副院長は、「専門性の異なる職種で食べることの大切さを共有できることはとても意義がある。職員の食に対する姿勢が変わった」と話した。

(吉田早希)

高齢社会に伴い摂食嚥下障害は増加傾向にある一方、医療現場で食支援の正しい知識や適切な技術を持つ医療従事者は少ない現状がある。大城さんによる医療現場では患者の窒息や誤嚥を避けるために禁食を判断することがある。禁食は治療上必要な場合もある一方、安易に禁食とされることも多く、患者の回復を妨げるケースがあるという。正しい知識と技術、多職種の連携で、摂食嚥下障害である患者も多いとして、大城さんは県内の回復期・急性期病院、訪問看護ステーション、介護保険施設で、患者の食支援や口腔ケアの方法などを指導している。

沖縄リハビリテーションセンター病院が取り組むKSPは、看護師や言語聴覚士、作業療法士、介護福祉士、管理栄養士、介護福祉士、看護師や言語聴覚士、作業療法士の多職種が参加する。昨年8月以来、参加した。これまで学んだ知識をまとめて、チームワークやエネルギーが必要。学んだ知識を現場で生かし、自分のスキルにしてほしい」と語った。沖縄リハビリテーションセンター病院の垣花美智江副院長は、「専門性の異なる職種で食べることの大切さを共有できることはとても意義がある。職員の食に対する姿勢が変わった」と話した。

ト(評価) ②口腔ケア③おしゃべり安全な食形態④食事介助のテーマごとに学習した知識をまとめた。その上で、現場でどう生かせるか具体的な意見を出し合って、他チームと共有した。

スマートについては、低栄養が摂食嚥下障害につながり、筋力や生活の質(QOL)の低下、そしてさらなる低栄養を招くという悪循環を確認。各専門職が日々の業務で担う役割を挙げた。

きさみ食やミニサー食など患者に合わせて変える食形態に関しては「安全なだけなく食べたくなる工夫が大切。何を食べたか分かるようになる必要がある」との意見が上がった。

生かすためには「目標を共にし、具体的でタイムリーなプラスのフィードバックを職員間で行う」「知識の共有が職員間で行う」「知識のある人が他職員に還元していくことなどが挙げられた。

大城さんは「食の支援は、知識や技術、思いに加えて、チームワークやエネルギーが必要。学んだ知識を現場で生かし、自分のスキルにしてほしい」と語った。沖縄リハビリテーションセンター病院の垣花美智江副院長は、「専門性の異なる職種で食べることの大切さを共有できることはとても意義がある。職員の食に対する姿勢が変わった」と話した。